

[月刊] キリスト教書評誌

本のひろば

出会い・本・人

強いられた恩寵 伊藤 悟

エッセイ

船本弘毅 編

希望のみなもと 船本弘毅

本・批評と紹介

呉寿恵 著

在日朝鮮基督教会の女性伝道師たち

大嶋果織

市橋さら 著

虹を駆ける天使たち 高橋貞二郎

ポール・ブラッドショー 編著／榊原芙美子 訳

礼拝はすべての人生を変えてゆく

越川弘英

菊地 譲 著

この器では受け切れなくて 雨宮栄一

山田耕太 著

フィロンと新約聖書の修辞学 川田 殖

K.G.アッポルド 著／徳善義和 訳

コンパクト・ヒストリー

宗教改革小史 出村 彰

黒木安信 著

嘆きの谷を通るときも 深津容伸

金子晴勇 著

キリスト教霊性思想史 小高 毅

J・ウェスレー 著、A・ルシー 編／坂本 誠 訳

心を新たに 黒木安信

越川弘英、平野克己、大島 力、並木浩一 著

旧約聖書と説教 及川 信

アラン・リチャードソン 著／西谷幸介 訳

仕事と人間 井田昌之

既刊案内

書店案内

4 APRIL
2013



ことばのともしび

神をエネルギー源としているから、
末盛さんは底抜けに明るい。

末盛千枝子 著

谷川俊太郎



夫との死別、幼い2人の子どもを抱えながらの絵本編集者としての活躍、息子の難病と障害、貧しかった彫刻家の父、若くして逝った友、そして震災後にたちあげた「3・11絵本プロジェクトいわて」のことなど、人生の様々な悲しみと試練、出会いと恵みを、静かな言葉で綴った珠玉のエッセイ集。

3月22日

◆四六判・164頁・定価1050円

最初期キリスト教思想の軌跡

イエス・パウロ・その後

青野太潮 著

3月22日

キリスト教はいかなる過程を経て生成・展開していったのか。イエスとキリストとを結ぶ多様な糸を丹念に解きほぐしながら、思想成立の過程に肉薄し、その意義を考察した刺激的論考29編を収録。キリスト教思想の軌跡を問いつけてきた青野新約聖書学の集大成。

◆四六判・860頁・定価6300円



バルト・セレクション5

カール・バルト著
天野有編訳

3月21日

「福音と律法」「義認と法」「プラハのプロマートカ教授への手紙」など反ナチ教会闘争時代の重要論考10編を収録。「教会と国家」の問題を考える上で必読の文献の新訳。

◆文庫判・648頁・定価1995円



権力を志向する 韓国のキリスト教

内部からの対案 崔亨默 著／金忠訳

3月22日

民主化闘争や民衆神学だけではない「その後の韓国のキリスト教」。富と力を志向するその現実を鋭く批判し対案を提示。韓国で話題を呼んだ問題作。

◆新書判・定価1785円

生誕 100 年記念出版！ 好評発売中 渡辺禎雄聖書版画集 くすしきみわざ



渡辺画伯 (1913-1996) の代表作 73 点を収めた決定版作品集。

日本の伝統的な型染版画の技法を用いた素朴な美と篤い信仰との結実は国際的にも高い評価を得ています。

解説＝神田健次、アン・パイル

◆A4判・定価5250円



出会い・本・人 強いられた恩寵——伊藤 悟

私は自己のなかに大きな矛盾を抱えている。日々、ことばを扱う仕事をし、学生たちに様々な文献を紹介し、読書を薦めている立場でありながら、私自身は「読書」にずっと苦勞してきた。読書好きや活字好きがいて、さらに活字依存があるとしたら、私はどうやらその対極にいる。食欲に次々と本を読みあさる人を見ると、たとえそれが子どもあっても羨ましく感じる。多くの人には分かつてもらえないかもしれないが、かなり苦勞しながら読書をしている。大学の研究者としては致命的かもしれない。

幼少期から多くの本に囲まれて育った。当時の流行でもあった十数巻にもなる百科事典、五〇巻ほどにもなる児童文学全集が私の勉強機の横にずらりと並べられていた。今思えば、それらを読まなければという強迫観念がいつもあった。しかしそれらのうち何ページを開いたことだろう。一般に多く読まれる児童文学はどれも好きになれなかった。読書感想文のための指定図書も、強いられた読書として、かなり無理をして読んだ。楽しくはなかった。今でも小説や文芸作品やSFものは苦手であまり手にしない。漫画を読むこともない。読むスピードも遅い。

とはいえ、実際には日々、本に囲まれた生活をしている。読まなければならない本やどうしても避けて通ることのできない神学書も多くある。気になったタイトルや著者の本は、次々と入手し

て読むことは読む。だがそれらは半ば義務的に必要に迫られて読んでいる。仕事としての読書である。じつのところ、けっこう努力をして苦勞しながら本や文献と向き合っているのだ。こんな本との向き合い方は正直なところ自分でも辛い。甘えているわけではない。逃げているのでもない。もう少し深いところにある問題——たとえば遺伝性のもので、幼少期のトラウマ体験、自己習癖など——のようだ。もっと自由に読みたいし、読むべきものもたくさんある。だが読めないというジレンマに襲われてもがくことがしばしばだ。

私にとってどんな読書も、つねに「読まねばならない」課された宿題である。しかし強いられた恩寵というのは存在する。宿題であろうと、義務的であろうと、読書を通して養われた信仰がある。新しい価値観や世界がある。数多くの出会いも経験した。強いらなければならない聖書も読まなかったかもしれない。大学教員にならなければまったく本など読まない人生になっていたかもしれない。

このような紙面で妙なカミングアウトをしてしまった。本当は読んでみたい本はたくさんある。それらの宿題をこなす努力を何とかしていい。そこにも強いられた恩寵があるに違いないから。

(いとう・さとる 青山学院大学教授)

八七人の聖書に支えられた歩みの証言 船本弘毅編

希望のみなもと

わたしを支えた聖書のことば



船本弘毅

本書の誕生の背後に、東日本大震災があることは言うまでもありません。二〇一一年三月一日、東日本を襲った巨大地震、大津波、福島原発事故は、想像を絶する被害をもたらし、多くの尊い生命を奪い、人々の住む家、働きの場を破壊しました。現時点で最も新しい統計によれば（二〇一三年一月九日現在）、死亡者一万五千八百七十九人、行方不明者二千七百人、そして数え切れない多くの被災者が、元の生活に戻れないまま冬の日を過ごしておられます。

大震災のあと、多くの言葉が語られました。大地震の苦難と悲しみを共に担おうとすることばと共に、随分乱暴な心ない発言もなされました。神を否定したり、天罰だと決め付けたり、弁解に必死で事実を隠蔽するようなことばが溢れました。そして不幸なことに、言葉への不信任が広がって行ったように思います。調子の良い政治的発言や、がんばろうという掛け声だけでは、どうにもならない厳しい現実の中で、真実に信頼し得ることばを求めるうめきにも似た声がありました。

そのような状況の中で、今こそ、二千年の歴史の中で読み続

けられ、人類の書として人々を支え続けて来た聖書のことばに聴く時ではないかという思いを強くしていた時、燦葉出版社の白井隆之社長から『わたしを支えた聖書のことば』シリーズに新しい巻を加えたいが協力して貰えないかという話が持ち込まれました。わたしは不思議な導きを感じて、編集に携わることになりました。

執筆依頼の手紙には「本書出版の願いは、大震災で被災された方々に直接何かを語ろうとか、意見を述べようとかすることではありません。むしろ、皆様が今まで歩んでこられた、それぞれの人生の中で、多くの課題と取組みながら、折りに触れ、さまざまな時と場で、また思いがけない出来事を経験なさる中で、お聞きになり、支えられて来た聖書のことばについて、率直にお語り下さることによって、この時代への信仰と愛のメッセージを伝えることにあります」と記しました。

いわゆる著名人のみでなく、人に知られることなく黙々と立派な仕事をしておられる方々にも広く執筆を依頼しました。予想を越えて八七名の方から原稿が寄せられ、二冊に分けねば

ならないかと思うほどでしたが、飾らず、率直に、聖書と向き合って語られた魂の証しを、すべて読んで頂きたいと願って、四〇〇頁の書物になりました。因みに、執筆者は三〇代から八〇代と幅広く、東京が中心になりがちなのが国ですが、東京在住者は全体の四分の一ほどで、地域的に分ければ、北海道を含む東日本から五四人、四国・九州を含む西日本から三三人、男性が六一人、女性が二六人となりました。勿論、お願いしたかったと思う方はほかにも多くおられますが、次の機会にゆづらざるを得ませんでした。

寄せられた原稿を、丹念にすべて読めるのは編集者の特権ですが、長く親しい交わりを持ちながら、今迄知らなかったそれぞれの人生の旅があったことを、改めて知らされました。人は誰しも、喜び悲しみ、失敗し、過ちを犯し、後悔しながら生きています。「生きる望みさえ失ってしまいました」（第二コリント一・八）というパウロの叫びに、自分の生を重ねる人も多いと思います。

聖書は崇高な人生を説く宗教書として、優れた賢人が書斎に閉じ籠って書き上げたものではなく、具体的な歴史の中で生きた人々のありのままの心の叫び、訴え、祈りが記されている書物です。それゆえに、古い書物でありながら、時代や場所を越

えて、今を生きるわたしたちに語りかける力と生命を持つています。

八七名の個性豊かな文章から成る本書を、読みやすくすることを願って、六つの章に分け、それぞれに題をつけましたが、それは厳密な区分けをしたのではなく、信仰による人生の諸相を言いあらわしたに過ぎません。ですから、どこから読んで下さっても、また折りに触れて取り出して読んで下さっても良いと思います。そして聖書の福音のメッセージに耳を傾けて頂ければと願っています。

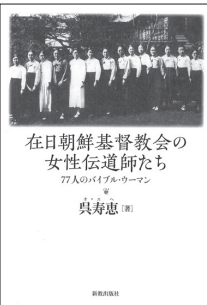
『希望のみなもと』という本書の題は、一九九五年一月七日の阪神・淡路大震災を現地で体験し、当時働いていた関西学院の犠牲者追悼礼拝の式辞を述べるという辛く忘れ難い務めをした時に、最後に引用した聖句から取りました。

希望の源である神が、信仰によって
得られるあらゆる喜びと平和とで
あなたがたを満たし、聖霊の力によって
希望に満ちあふれさせてくださるように
（ローマの信徒への手紙一五章一二節）

（ふなもと・ひろき『東京女子大学元学長』
（四六判・四〇〇頁・定価一八九〇円（税込）・燦葉出版社）

在日朝鮮基督教教会の女性伝道師たち

77人のバイブル・ウーマン



大嶋果織

一粒の砂を探して

「どこまでも続く砂浜の、気の遠くなるような膨大な砂粒の中から、きらりと光る一粒の砂を探し出す。歴史研究とはそういうものだとD先生がおっしゃっていたわ」と呉寿恵さんが述べた時のきっぱりした口調をわたしは忘れない。数年前のことである。その頃、呉さんは本書の研究のためにしばしば渡韓されていた。その日もソウルYWCAに資料を探しに行き、一日費やしても得るものがなく、肩を落としてホテルに戻ってこられたのだった。同じホテルに投宿していたわたしが慰めの言葉をかけると、呉さんは冒頭の言葉をわたしに返された。その言葉の中に、一片の情報を見つけるためにはどんな苦労も厭わぬ研究者の執念を感じとって、わたしは自らを恥じたのであった。

それから一年後、ある集会で再会した時、「ようやく名前が一致したのよ」と呉さんが話しかけてこられた。戦前の在日朝鮮人女性に資料によつては日本名だけしか記されていないことがある。この日本名の在日女性はいったい誰なのか。本名であ

る朝鮮名と、押しつけられた日本名を照合するために、呉さんはさらに時間を費やしたのであった。

このような地を這うような努力の結果、明らかになったのが、77人の朝鮮人女性の名前と経歴、その信仰と働きである。呉寿恵さんはそれらを日本と韓国との歴史の中に位置づけ、暴力と搾取が容赦なく襲いかかる日本社会で懸命に生きようとした同胞のために彼女らが為した働きの大きさを示して見せた。それが本書『在日朝鮮基督教教会の女性伝道師たち——77人のバイブル・ウーマン』である。

「車輪は片方だけでは動くことができません」

77人全ての名前を紹介したいのだが、それは本書を読んでいただくことにして、ここでは女性伝道師の前史として在日朝鮮基督教教会に関わった一人の女子留學生を紹介しておこう。それは、第1章「創設期（1908—1924）」に登場する黄愛徳（ファン・エドク）、別名 黄愛施徳（ファン・エスター）である。

一八九二年に平壤で生まれた黄愛徳は、東京女子医学専門学校

校で学ぶために一九二七年に来日。留學生達によつて進められていた独立運動に参加するようになる。しかし、そこで直面したのは、男子留學生達の性差別的態度であった。彼らは女子学生達が「二・八独立宣言」の起草に参加しようとした時、それを阻んだのだ。そんな男子学生を変えたのは黄であった。黄は「国家の大事を男性だけがやるということですか。車輪は片方だけで動くことはできません」と熱弁をふるい、彼らに感動させたという。以後、両者は協力して「二・八独立宣言」の準備に取り組んだ。

こうして整えられた独立宣言文は、一九一九年二月八日、東京朝鮮YMCAに集まった約四〇〇人の留學生達によつて採択され、その写しが多くくの学生達によつて本国に持ち帰られ、三・一独立運動に大きな影響を与えた。黄も日本女性に変装して束髪の中に宣言文を隠して本国に持ち帰り、三・一独立運動に参加する。こうして黄の民族解放運動家・女性解放運動家としての活動が始まった。ちなみに男子学生達を感激させた黄の演説について書き残したのは、当時の朝鮮女子留學生親睦会の会長で、女子学院に留学していた金瑪利亜であった。

歴史から問いかけられている

在日朝鮮基督教教会に女性伝道師が登場するのは、黄たちが独

立運動のために本国に帰ってからであり、その働きは黄たちが初期の留學生たちとは異なっている。しかし、「車輪は片方だけで動くものではない」という黄の主張は、その後も在日朝鮮基督教教会の女性達に引き継がれ、彼女達を伝道と奉仕のわざに押し出していった。第2章「成長期（1925—1933）」、第3章「自立期（1934—1939）」、第4章「受難期（1940—1945）」と読み進むと、歴史の中から立ち現れてきた77人一人一人が「あなたは車輪の片方として働いている?」、「平等で公正な社会に向けてしっかりと努力している?」と問いかけてくるのがわかるだろう。

呉寿恵さんは、彼女たちの働きと信仰は、在日大韓基督教教会の今後のビジョンのヒントになると述べているが、わたしは日本の諸教会の方向性を示す土台になると言いたい。排外主義がますます露わになっている日本社会において、日本のキリスト者がどのような信仰に立ち、どのような働きをしていかなければならないか、本書を読んで共に確認したいと思う。日本人必読の書である。

（おおしま・かおり）NCC教育部総主事

（A5判・二八〇頁・定価四五一五円（税込）・新教出版社）

この熱いメッセージを、ぜひ若い人に読んでほしい
市橋さら著

虹を駆ける天使たち

ナイロビの子どもたちと共に生きて

「人は自分のためではなく、誰かのために生きるとき、生かされるのです。与えられた能力は誰かに向かうときに、一〇〇パーセント以上発揮されます。自分でも気がつかなかった力が出てきます。……こんな生き方ができたら人生はおもしろく、エキサイティングです。」（最終章より）

これは、神とケニアの人々のために生きている著者の言葉である。本書は、この言葉の実践記録であり証しといっても良いであろう。具体例も多く、わかりやすく書かれているので、中学生・高校生から既に社会で働いている人にも、実り豊かな生き方をするためのヒントを与えてくれる。

本書の著者は、ケニアのナイロビにあるキユーナ幼稚園とコイノニア教育センターという二つの教育施設を開設し、ケニアの人々と共に生きながら働いていらつしやる市橋さら先生である。

以下、本書の内容を概観する。一章、二章には、市橋先生が、なぜアフリカの人々のために働くようになったのか。また、初めてアフリカへ行き、ケニア最大のスラムといわれるマザレバ



高橋貞二郎

レーを訪れた時のことが書かれている。三章には、ケニアのナイロビで「サーバント・リーダー（人々に仕えるリーダー）」を育てるためにキユーナ幼稚園を開園したこと。さらに、四章から七章にかけては、キユーナ教会の設立と、キユーナ教会に来る最も貧しい生活をしている子どもたちを対象としたコイノニア幼稚園の開園、小学校教育も行うコイノニア教育センターの立ち上げの様子などが記されている。

コイノニア教育センターの目的は「一人一人の子どもに、『あなたは神さまから愛されていて、神さまから特別な賜物を与えられている』と伝えること。その賜物を見出し、育てること。それらを用いて社会の中で神さまと人々に奉仕できる人『サーバント・リーダー』を育てること」にある。四章から七章では、コイノニア教育センターの設立のいきさつだけでなく、その目的を遂行するために先生がどのようなことをなさったか、また、子どもたちや親たちがどのように変わっていったのかも具体的に記されている。読者は、それらを通して著者の奮闘努力と共に、神様は必ず必要を満たしてくださる方であることを

知るであろう。

八章には、ご家族の姿勢などが示されている。ケニアでの生活は、決して順風満帆というわけではなかった。辛く眠れぬ夜もあった。しかし、どんな時にも希望を持ち続けることができたのは、イエス・キリストへの信仰と「それでも人生にYESと言おう」という言葉があったからであるという。この言葉は、ヴィクトール・フランクルの著書のタイトルにもなっているのだが、どんな状況が目の前に現れても、そこから逃げずに、それを引き受け、「NO」と言わず「YES」と言っていることを意味する。このポジティブな言葉が、ご家族の姿勢である。九章には、夫であり牧師である隆雄先生が見た夢の話が出てくる。その部分を引用してみよう。「天に虹のように大きな梯がかかっていました。そしてその梯の上を天使たちが行き来しているのですが、よく見るとその天使たちはみんな顔見知りの人たちです。これまで私たちを様々な形で助けてくださった人

たちでした」。その夢を通して、誰かのために働く時に人は天使のようになるという著者の思いと、今まで自分たちはそのような人たちに支えられてきたが、自分自身も、誰かのために天使として働きたいという願いがこの章に書かれている。先日、市橋先生とお会いする機会に恵まれ、本書を通して伝えたかったことを尋ねてみた。すると先生は「神様はどんな時でも絶妙なタイミングで助けてくださること」、「持つているものを分かち合う時、豊かな世界が生まれること」、「どんな人でも、神様に用いられる時に天使のようになる。皆さんにもそんな人生を送ってもらいたいこと」などを伝えたいとおっしゃっておられた。まさに、そのメッセージが本書から熱く伝わってくる。是非、若い人に読んでほしいと思う。

（たかはし・ていじろう＝東洋英和女学院中学部高等部宗教主任
（四六判・一九四頁・定価一六八〇円（税込）・日本キリスト教団出版局）

神学は語る たとえ話

デイヴィッド・B・ガウラー 駒木亮 訳

第3回 記本



イエスのたとえ話を巡り、神学者たちが重ねてきた膨大な議論を、歴史的批評、文学的批評、社会科学の批評など大きく七章に分類し、「たとえ話」研究の最先端へ導く。
A5判・200頁・2730円

好評発売中
聖書とキリスト教倫理
W.C.スポン 徳田 信 訳
新約聖書と黙示
S.M.ルイス 吉田 忍 訳

ローティーン向け伝記シリーズ

ひかりをかかげて
レイチェル・カーソン
いのちと地球を愛した人

上遠恵子

地球の悲鳴を聴き取り続けたレイチェル・カーソン。彼女の生涯を、カーソン研究の第一人者が語る。
A5判・128頁・1,260円



第3回 記本

英国の堅実な注解シリーズ

ニューセンチュリー聖書注解
コヘレトの言葉

R.N.ワイブレイ
加藤久美子 訳

第10回 記本

言葉の矛盾という課題に挑みつづ、各単元に注目してメッセージを丁寧に解説。
A5判・304頁・4,830円

日本キリスト教団出版局

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
☎03-3204-0422 ☎03-3204-0457
E-mail eigyou@bp.ucci.or.jp（価格税込）
<http://bp-uccj.jp>

私たちを変え、私たちの人生を変える礼拝
ポール・ブラッドショー 編著／千倉志野 写真
竹内謙太郎 監修／榎原芙美子 訳

礼拝はすべての人生を変えてゆく その働き、その大切さ

編者のひとりであるポール・ブラッドショーは礼拝学の世界では現在もとてもよく知られた人物のひとりである。また奥付によれば、もうひとりの編者であるピーター・モージャーも礼拝学及び教会音楽の研究者である。そしてまたこのふたりは英国聖公会司祭でもある。

そのような聖職者であり研究者である編者によってまとめられたこの本のねらいは、冒頭の「日本語版への序文」に次のようにはっきりと記されている。「私たちがこの小さな本をまとめたのは、クリスチャン、とりわけ聖公会の信徒のため、毎週参加している礼拝の中で何が起きているのかをよりよく理解する一助になれば、またそうすることさらに深く礼拝に関われるように後押ししたいと思っていますことです」。(三頁)

それでは礼拝をよりよく理解し、深く礼拝に関わることによって何が起きるのだろうか。ここで浮かび上がってくるものが、本書のタイトルにも含まれている「変わる／change」というテーマである。「よい礼拝」、すなわち「よく整えられており、良く導かれる礼拝、そして参加する人々もよく理解し準備した



越川弘英

うえで行われる礼拝」は、私たちを変え、私たちの人生を変えるものとなる。本書はこのような確信と願いのもとで、礼拝についての神学的信仰的な考察を繰り広げていく。

本書を初めて読んだとき、私が不思議に思ったのは、四部に分けられた構成とその内容の取り扱い方であった。普通ならば序論なり基礎的なことから始まって、各論なり展開的な叙述へと進んでいくことを予期していたのだが、どうもそうはなっていない。四部構成のそれぞれに「基本的な事柄／basics」[「属すること／belonging」]「なつてゆく／becoming」[「信すること／believing」]というタイトルが付けられており、各部の中で、洗礼、聖餐、み言葉や祈りといったテーマが繰り返し現れる。そうかと思うと、特定の部でしか扱われていないテーマ、たとえば、葬式、結婚式、とりなしの祈り、信経、聖務日課、伝道といったものが出てくる。ずいぶんランダムであり、また重複した内容が繰り返されるといふ印象である。

この点について、日本語版を監修された竹内謙太郎司祭が「解説」の中で述べておられることをヒントにしながら、何度

か読み返していくうちに、私なりに思い浮かんだことがある。すなわち、この四部構成は、洗礼や聖餐などといった礼拝の核となるものを多様な角度から何度も捉えなおしつつ、その意味深さを伝えながら、同時にそれ以外の礼拝の行為や要素に順次説き及ぶことによって、キリスト教礼拝の全体像と豊かさを伝えようとしているのではないかということである。本書は全体として、読み進めるにつれてらせん状に上昇していくような（或いは深められていくような）イメージを持っている。同じようなことがらを取り扱っているように見えて、徐々に私たちの視野が高められ広がっていくような印象である。そして「伝道の礼拝」という最終項で終わる本書は、もしかすると再び最初の「基本的な事柄」へと帰ってくることを意図しているのかも知れないと感じた。読み返し読み返しながら、礼拝とは何かということを感じ、学び、「変わる」ことに備えさせようとする意図がこめられているのではないだろうか。礼拝を学ぶための書

物として、本書は異色ではあるが本質を外してはならず、現代的な装いをとりつつキリスト教会の伝統をしっかりと踏まえている。深く味わい知るべき書物である。

最後に本書の大きな特徴として文章と共に添えられた写真に言及しておきたい。原著ではロウソクなどキリスト教会の象徴的な事物やさまざまな人物の写真が多用されるのに対して、日本語版では美しい草花や風景写真によって全編がまとめられている。不思議なほどの好対照だが、これらの写真に込められたメッセージを本文と共に読み解いていくこと、これもまた本書のおもしろさであり、また読者に課せられた宿題であると言えるかも知れない。

(こしかわ・ひろひで)同志社大学キリスト教文化センター教員
(A5変・五二頁・定価一五七五円(税込)・聖公会出版)



聖公会出版

ヘンリ・ナウエン

その生涯とビジョン

M・オラフリン著

廣戸直江 訳



キリスト教霊性の著述家として多くの作品を残したナウエン。その幼年期から死に至るまでのナウエンの生涯を写真と彼の語ったことばで綴る。本邦未公開の写真も多く掲載。A5判・212頁・定価 2100 円

礼拝はすべての
人生を変えてゆく

～その働き、その大切さ～

ポール・ブラッドショー 編
榎原芙美子 訳



現代英国の礼拝学の碩学ブラッドショーは「教会はいつでも本来あるべき姿になってゆく途上にある」と唱える。そんなブラッドショーが若い世代に問いかけた名著の翻訳。全編カラーの美しい映像の中で、礼拝の神髄が語られる。A5変形・52頁・定価 1575 円

アダム—神の愛した子

H・ナウエン著／宮本 憲訳

大学で神学を講じていたナウエンは魂の遍歴の末に行き着いた障がい者が集うラルシュでアダムと出会い、アダムの中に神の存在を見る。改訂新版。四六判・176頁・定価 1890 円

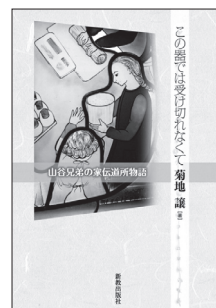


162-0814 東京都新宿区新小川町 9-1
TEL03-3235-5681/FAX03-3235-5682
nssk-bookshop@company.email.ne.jp

社会のひずみの下で呻く人々と共に
菊地 譲者

この器では受け切れなくて

山谷兄弟の家伝道所物語



雨宮栄一

およそ国家の課題に、国内の産業経済を起こし、国民の経済を潤し、可能な限り国民の間の格差を無くすという課題がある。様々な人間の生活する国である。当然のように勝ち組、負け組が生まれる。その格差を埋める役割が国家にはある。しかし国は充分な手を打てない。それどころか現政権は生活保護費の一割削減を主張し、負け組と言われる人々の生活に圧力をかけようとしている。

現在この負け組といわれている人びとが、集中して生活している場所が、東京では山谷というところである。一九六〇年代には、二万二千人ほどの日雇い労働者が、東京オリンピックによる建築ラッシュで景気よく働いていたが、今は見るかげもない。労働者の数は減少し、路上生活者、老いた労働者が増加している。

著者である菊地譲牧師は、この山谷の地に三十年あまり入り込み、日雇い労働者と共に生活し、労働し、宣教のために働いてきた伝道者である。そしてこの書物は、その間、涙と汗で描いた貴重な記録である。

若き菊地譲牧師が山谷伝道を決意した経緯、ひとりの労働者として働いた労苦、次第に人の輪が出来上がり、「木曜礼拝」を中心とする礼拝共同体が出来上がるまでの苦労、「山谷兄弟の家伝道所」建設までの努力、しかも山谷の中で日雇い労働者の最も必要としている「食べ物」、人間として最低限を支える「食べ物」をどのようにして、彼らに支給しうるかという問題、一人一人の路傍生活者を尋ねる深夜給食に始まり、やがて最低の安さで食事を提供する「まりや食堂」の開設への苦闘、考えられないほどの安価な弁当、数多くのボランティアの支援、ともかくこの書物に記されている、三十年余り数々の労苦の連続を、人はある種の感動なくして読むことは出来ない。

この間、菊地牧師と多くの人との出会いがある。山谷に住む人への牧会があり、温かな配慮が必要とされる。日本の普通の教会の伝道と牧会とは、質においては同じであろうが、全く形と、それに払う努力の量は比較にならない。驚くべき労苦がともなう。寄る辺なき人の死もある。この「山谷兄弟の家伝道所」には墓がある。千葉県の片隅にある。血縁関係者から、自分達

の故郷の埋骨を拒否された、六人の人びとの遺骨が埋葬されている。

菊地牧師の言葉をそのまま借りると「故あって兄弟の縁を切り、家族の絆を捨て、東京山谷で自らの人生を駆け抜けた人々であった。生活史をさかのぼると、一人一人それぞれが修羅場に近い生き方をしている。家族を傷つけ、自らも傷ついて癒す場所もなく、山谷へと自らの生を生かすためにやって来た。多くは過去のつらさを酒で紛らし、あるものはアルコールに囚われ、ある者は一時の陶酔を求めてギャンブルへと自らの生を燃やし、寂しさを癒してきた。人の一生はすさまじくも悲しいものである。墓の中の人々は、それぞれが小説よりも波乱万丈の人生をその存在において描き切った。私達の墓はその終着点だ。それは単なるおしまい場所ではなく、和解と癒しの場である」(一八〇頁)。その通りである。

しかもこの書物の魅力は、菊地牧師がこのような現場におい

ても、真剣に聖書と思想を学びながら働いている所である。カミュやレヴィナスを読み、現場の中での旧約聖書のヨブ記の解釈は、学者のそれとは違って人々の心をつつ。

日本のキリスト教会とキリスト者は、都心に近くありながら日本の周囲に位置する山谷という場所で、このような宣教の業が行われていることを、この書物を通してもっと知るべきである。そこより学ぶべきである。多くのキリスト者が読まれることを、心からお勧めしたい。

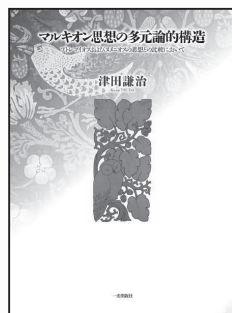
(あめみや・えいいち) 日本基督教団隠退教師
(四六判・二五頁・定価一五七五円(税込)・新教出版社)



マルキオン思想の 多元論的構造

ブトレマイオスおよびヌメニオスの思想との比較において

津田 謙治
Kennji Tsuda



多神論的な潮流を分析する
日本初の論考!

2世紀のローマで、マルキオンは旧約と新約の神の分離を説き、旧約は救済に関係ないとして新約だけの正典を作成。しかし、これを契機として聖書が正典化されていく。

A5判

定価 4,410 [本体4,200+税] 円
ISBN978-4-86325-055-0



株式会社 一麦出版社

札幌市南区北ノ沢3丁目4-10

TEL (011) 578-5888

http://www.ichibaku.co.jp

携帯 mobile.ichibaku.co.jp

西洋精神の根本動機
山田耕太著

フィロンと新約聖書の修辭学

フィロンと新約聖書の
修辭学

山田耕太著

Rhetoric in Philo and the New Testament
Kenta Yamada

川田 殖

民主主義のふるさと古代アテネの典型的政治家ペリクレスは、政治家たる者の必要条件として「なすべきことを見抜き（洞察力）、これを言葉に出して説明し（表現力）、ポリスを愛して（愛国心）、金銭の誘惑に負けぬこと（潔白性）」を挙げている（ツキユディデス2・60・8）。このうち表現力は、政治だけでなく、法廷でも、その他の集いでも尊重され、弁論術・修辭学として、市民の教養教育の必須課題となり、のちのヘレニズム・ローマ世界でも重視された。この世界の中で宣教伝道に携わったユダヤ教やキリスト教の伝道者の中にもそれが生かされているのは当然であって、このことはユダヤ人哲学者フィロンの著作や新約聖書の書簡の中にも見られる。

著者はこの視点からこれらの文書の修辭学的研究を続けて二十年。すでに『新約聖書と修辭学』その他の著作があるが、それらに続く研究論文を主題の書にまとめられた。

本書はまず「ギリシャ・ローマ時代のパイデアーと修辭学」の教育」をプロローグとして、フィロンの修辭学と哲学を典型的な実例に即して具体的に説明する第一部、新約聖書の研究史

の流出をまとめた第二部、これに続いてガラテヤ・フィリピ・第一コリント（二―四章）・ローマの順でパウロ書簡の修辭学的分析を行う第三部、ヘブライ・ヤコブ・第一ヨハネの各文書の修辭学的分析を扱う第四部、および、これらの背景であるギリシア・イスラエルの両思潮の中で福祉思想の根本理念の展望を与えるエピローグから成っている。

こうした整然たる構成の要素たるいちいちの論考は、それぞれ丹念な先行研究への顧慮をふまえて、修辭学の諸概念を駆使した文体分析・構造分析を行うもので、その緻密な手捌きは瞠目に値する。しかしその行文は極めて明晰で、教育的配慮に満ち、蒙を啓かれること多大である。新約聖書の書簡中、随所に現れる、私たちになじみの薄い、論証の運びや反論の仕方などが、当時の修辭学的教養の光とともに照らし出される時、いかなる意味を持つかを知らされ、心ある人は目から鱗の経験をするだろう。そのような人のために本書はまたとない導きとなる。またそのために、巻末の「修辭学用語集」は極めて有用である。

フィロンについて一言つけ加えれば、筆者はかつてその著作を拾い読みしながら、その聖書解釈に、ユダヤ伝来の信仰に加えて、ギリシア哲学の影響のあることを感じ、これがのちのキリスト教教父の聖書解釈や弁証論、さらには中世スコラ哲学の思考契機になっているのではないかと考えていた。この思いを抱きつつ三十年、今や日本人として直接にこの問題に取り組み、ユニークな形でそれを解明されつつある著書の出現に心からの喜びを禁じえない。それまでは今まで多くの日本人が見落していた西洋精神の根本動機を、最も根底的な所から取り上げ、これを取り組む本格的研究の出現のあけぼのだからだ。著者による、また著者を中心とした同志による、研究の推進を切に祈りたい。

（かわだ・しげる 元日本聾話学校校長）

（A5判・三四七頁・定価六六二五円（税込）・新教出版社）

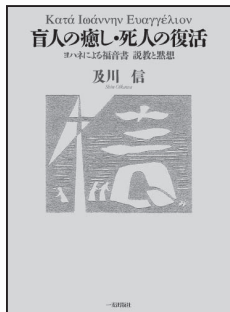
最初にペリクレスの例を挙げたが、それは弁論術・修辭学が政治家たる者にかかる大切な要件であることを示すとともに、それが他の要件、洞察力、愛国心、潔白性、結びついてこそ正しい。



盲人の癒し 死人の復活

ヨハネによる福音書 説教と黙想

及川 信
Shin Oikawa



ヨハネ福音書を愛した新約学者
松永希久夫の教えに基づく
「釈義と黙想」から生み出された
綿密な講解説教。

二つの奇跡は、
あなたに、
何を語りかけているのか。

四六判
定価 1,995 [本体1,900+税] 円
ISBN978-4-86325-054-3



株式会社 一麦出版社
札幌市南区北ノ沢3丁目4-10
TEL (011) 578-5888
<http://www.ichibaku.co.jp>
携帯 mobile.ichibaku.co.jp

新時代の視点が冴える
K・G・アッポルド著
徳善義和訳

コンパクト・ヒストリー 宗教改革小史



出村 彰

原題では、*Reformation: A Brief History*、邦訳の書名では「小史」とある。しかしながら、コンパクト・ヒストリー・シリーズの一端だけに、コンパクトの原語義「ぎつしりと詰め込まれた」にまことにふさわしく、単なる略史ではない。これまでも決して少なくない宗教改革略述を予想して読み始めると、再読、三読を強いられることは必定である。

評者がまず言いたいのは、本書が「第三世代」の宗教改革史記述だということである。二十世紀半ばまで、いわば伝統的記述だった、あえて例示すれば、英語圏ではブリザーヴド・スミス、独語圏でならシューベルトなどの記述法、あるいは評者らが教会史の手ほどきを受けた頃の宗教改革史を第一世代としよう。ところが、ジョージ・ウィリアムズやペイントン、さらにペリカンなどによって「宗教改革」の包括概念が一気に拡張され、宗教改革の多様・多義・多重性が強く意識され、加えて、経済史、社会史、女性史など、原資料に手堅く立脚した緻密な研究が次々に公刊されるのが第二世代である。これらの成果をしつかりと踏まえながら、宗教改革を特定の時代に限定するこ

となく、原義にふさわしく「キリスト教の不断の自己改革」として捉えたのが本書である。

原著者の「略歴」そのものも、新しい時代の到来を暗示するかのごとくである。ドイツ生まれのアメリカ人、上記の宗教改革史転換を招来したペイントンらの学統を引くイエール大学で学位を取り、ドイツに学んで教授資格を得てヨーロッパ各地で教鞭を執った後、今はプリンストン神学校に在勤する一九六五年生まれの新進気鋭とある。両校で学んだ評者がいちおう学業を終えたのは一九六四年だったので、けだし羨望と賛嘆の念以外にない。極言すれば、本書は今後とも「絶えず新たに改革され続ける宗教改革史」の象徴、あるいは先駆けともなるだろう。全体の章立て、その表題の付け方がすでに暗示的である。一

中世キリスト教化の諸相、二 ルターのできごと、三 宗教改革は改革する、四 宗教改革が打ち建てたもの、最後に短いエピローグとして、宗教改革の遺したものと、なる。頁数にこだわるわけではないが、全体の約半分がルターと北欧を含むルター派教会の形成に割かれているのは、原著者の専攻分野からす

れば当然かもしれないが、評者自身の拙論著を含めた従来記述（ルター、ツヴィングリ、カルヴァン、イングランド、願わくは「急進派」、さらにはカトリック改革……と並列的に記述を進める）との著しい差異が印象的である。いわば、初回からエース級を投入して必勝の構えなのである。しかも、それが決して「わが仏尊し」ではなく、読み進めるほどに説得力を増すのが不思議でならない。

あるいはむしろ、「当然」なのかもしれない。何故ならば、ルターもまた、それまでのキリスト教とその苦闘の歴史の所産だからである。原著者は、中世にはヨーロッパのキリスト教化がすでに達成され、それが過熟した結果、「改革・復元」が必須となったという従来の史観に断固として挑戦する。忘れてならないのは、つい数世紀前まで、ヨーロッパは圧倒的に農村社会で人口の九割以上が農民であり、彼らの生活と心性とはキリスト教化の長い歴史によってさえも、大きく脱皮することとはなかったという事実である。彼らがしがみついて生きる土地、その領有・支配権の所在の確認、並びにそこで辛うじて生き抜くことの意味づけの双方を、キリスト教宣教は自己放棄と禁欲、および権力と権威という諸刃の剣で推し進めてきたし、今後と

もそうであろう。その意味では、十六世紀の宗教改革は他の時代と特に顕著に懸絶した「歴史の曲がり角」だったわけではない。現代でもグローバルには、世界人口の大半は土地で生きる「農村」なのである。

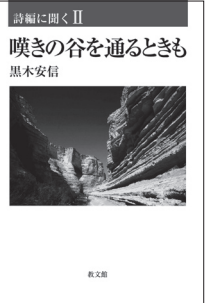
それではすべての歴史的事象の相対化に終わらないか、という疑問が出るかもしれない。しかし、福音はその本質よりして他者——究極的には「神」という絶対他者——と出会い、厳しく問われつつ、新しい自己確認（救い）に到達する過程ではないだろうか。原著者の基本的立場によれば、「この世のキリスト教化」はいまだに進捗中のプロセスである。それは単純に、万人がキリスト教徒になるという意味ではなく、福音が投げかける永遠の問い、個と普遍、ローカルとユニヴァーサル、時と永遠への問いを共有する努力の再確認ともなるだろう。十六世紀宗教改革は、この意味では今後とも世界的意義を持ち続けるのである。

この小著をあえて、第三世代の宗教改革史と呼ぶ論拠もここにある。「百聞は一読にしかず」の感を深めた快著である。

（でむら・あきら）東北学院大学名誉教授
（四六判・三四〇頁・定価一八九〇円〔税込〕・教文館）

福音信仰の光のもとで詩編を読む！
黒木安信著

嘆きの谷を通るときも 詩編に聞くⅡ



深津容伸

本書は「詩編に聞くⅡ」という副題のもとで、詩編五一編から一〇〇編までを解説している。我々が詩編から学ぶのは、たとえ苦難の中にあっても神と向かい合い、絶対的とも言える信頼をもって祈る詩人たちの信仰である。その点本書では、この本質が余すところなく深く汲み取られているといえる。詩編には（もつとも旧約聖書自体がそうであるが）イエス・キリスト、そして彼の十字架での死と復活による罪の贖罪という福音が表現されている。このことについて著者は福音信仰の光のもとで詩編を読むようにと勧めている。本書を読むことによって学ばせられるのは、キリストの福音の恵みがいかに大いなるものであるかということである。詩編を通してなされるキリスト者の黙想はかくあらねばならないと思わされる。

以上との関連で、キリスト教徒が詩編を読む上でどうしても引かかるのは、敵への報復を徹底的に願う祈りが多いことである。それに反してイエス・キリストは敵を愛し、敵のために祈ることを命じている。詩編はこの点では福音的ではない。これについて著者は、詩編の限界を指摘しつつも、神による公平

と正義を願う祈りと受け取るように勧める。究極的には、そのことを通して悪人が悔い改めることを求めるものである。そしてそれは、キリスト教信仰の光を通して見るならば、キリストの贖罪へとつながるものである。

以上の点で、本書は旧約の詩編という書物をキリスト者にとっても、キリスト教会にとっても、身近で、福音信仰にとつて重要な書物に位置づけているといえる。そしてその観点から、それぞれの詩の解説に際しての表題にも工夫がこらされている。また、参照される参考文献も多岐にわたっており、詩編の読みを深める上で有効に使われている。

詩編を学問的に見る時、大きな問題は、時代背景をつかみづらいという点である。一応背景を示す表題が付けられているものの、それらは学問的信憑性を持っていない。またそれぞれの詩は時代経過の中で付加されてきている可能性も高い。時代背景が明らかならば、それぞれの詩をそこに当てはめて具体的に解釈することも可能であり、実際に注解書ではそれを行なっている。しかしその時代設定は、当然ながら解釈者によってま

ちまちであるのが現状である。ここで、学問的には捨て去られているような表題ではあるが、もう一度見直してみる必要がある。特に本書のように、読者を黙想へと導く場合はそうである。なぜなら詩編は、そこに付されている表題（詩が作られたとされる背景）のもとで読まれ、黙想され、歌われてきたからである。この点で本書は、背景としての表題をしつかり踏まえつつ、その限界も指摘し、それを越えた意味を探っている。表題はその詩をより深く読むために付されたものといえるので（もちろん通常言われているように、詩に長けたダビデ王に帰すること）で権威づけたともいえるが、これは重要な作業である。

筆者は以前に著者の『起きよ、光を放て——クリスマス・イースター説教』の書評をさせていただいたことがある。その時に強く印象づけられたのは、著者の罪理解の奥深さだった。人間はどうして罪を犯すのか、罪を犯した結果、人間はどのようなことになっていくのかについて、著者は鋭い洞察を持っておられる。

この洞察は、詩編五一編を初めとして、本書の様々な部分で展開されている。こうした理解の深さの背景として、著者が長年にわたり、勤務所の教誨師を務めてこられたことと無関係ではないのでは、と思われる。それと同時に、こうした洞察が、全編に流れる強烈な福音信仰のもとでなされていることはさらに重要である。

本書は、教会の祈禱会等各種集会はもちろんのこと、個人の黙想のためにも有効に使われるものと期待される。

（ふかつ・よしのぶ 山梨英和大学教授）
（B6判・二三頁・定価一七八五円〔税込〕・教文館）

キリスト新聞社の本
Kirisuto Shimbun, Co., Ltd.

大幅リニューアル!
よりコンパクトに、より実用的に!

好評発売中!

Christian Year Book 2013
キリスト教年鑑 2013

PCで情報閲覧
+ラベル印刷機能

CD付き

CDの使用は
Windows/Macに対応

最新のデータブックとして、あるいは歴史的な資料として幅広く活用できます。二〇一三年版よりPC上で情報を閲覧でき、ラベル印刷もできる役に立つ便利な機能を搭載したCDを付録しました。また、二〇一三年四月には会員制「キリスト教年鑑」のサイトを公開予定です。乞うご期待!

キリスト教年鑑編集委員会●編

2013

地図から簡単に、
瞬時に教会を探し出せます!

キリスト新聞社
351-0114 埼玉県和光市本町 15-51
和光プラザ2階
TEL. 048-424-2067 (商標は税込)
E-Mail. support@kirishin.com
URL. http://www.kirishin.com

キリスト教年鑑2013

最新のデータブックとして、あるいは歴史的な資料として幅広く活用できます。二〇一三年版よりPC上で情報を閲覧でき、ラベル印刷もできる役に立つ便利な機能を搭載したCDを付録しました。また、二〇一三年四月には会員制「キリスト教年鑑」のサイトを公開予定です。乞うご期待!

キリスト教年鑑編集委員会●編

2013

地図から簡単に、
瞬時に教会を探し出せます!

キリスト新聞社
351-0114 埼玉県和光市本町 15-51
和光プラザ2階
TEL. 048-424-2067 (商標は税込)
E-Mail. support@kirishin.com
URL. http://www.kirishin.com

「キリスト教的人間論」の通史
金子晴男著

キリスト教霊性思想史



小高 毅

たいへんな力作である。本書のカバー帯にうたわれているとおり、たしかにキリスト教霊性に関して「日本語で初めて書き下ろされた通史」であろう。著者自らが「あとがき」で書いておられるとおり、本書は聖学院大学大学院で行われた講義を元に三年間かけて書き上げられたものである。著者は処女作である『ルターの人間学』から本書の前作にあたる『ヨーロッパの人間学の歴史』に至るまで一貫してキリスト教的人間論を探索し、数多くの著書を刊行してこられた方である。その意味で著者のこれまでの御研鑽の集大成とも言えよう。

本書の表題は「霊性思想史」となっているが、「霊性」という言葉に惹かれて本書を購入し、読み始められた方のなかには違和感を覚えた方もおられると思う。それは「霊性」という言葉の捉え方の違いによることであろう。そのような方は「キリスト教的霊性ではすべてにおいて神の恵みを中軸とする受動的他力思想が基本である」と考え、「恩恵としての神秘的体験」とまでは言わなくとも「恩恵としての霊的体験」の論述を期待したことによるのではあるまいか。

そもそも「霊性」という概念はギリシア・ラテン世界の「霊・精神」の概念と聖書の「神の霊」の理解との集約であるとともに、近代フランスにおける「創造的な霊的・知的活動としての霊性」とが複雑に絡み合っており、訳語の選定が難しいことが指摘されている。そのことはフランス語で刊行された霊性史の邦訳の表題として「神秘思想史」という語が選ばれていることにも表れているといえよう。

そのような状況を踏まえて著者は、ヨーロッパのキリスト教思想史において哲学的な心身の二区分とは別に、「霊・魂・身体」の三分法が説かれてきたが、それはパウロのイテサロニケ書五・23の「あなたがたの霊も魂も体も何一つ欠けることのないように」という言葉に由来し、オリゲネスを経て西ヨーロッパの伝統的な見解になったと指摘する。そして、ここでいわれる「霊」は「実体である魂に所与として認められる特別な機能であり、しかも広義の精神に所属する宗教的機能である。（中略）『霊・魂・身体』の三分法を心の認識機能という観点から考察するならば、それは霊性・理性・感性という三つの基本

的作用とみなすことができる」と指摘、「キリスト教の思想史を通してこの『霊性』が『理性と感性』に関わりながらどのような思想を生み出してきたか」を解明することを目指したのが本書であると自ら述べている。したがって、本書は「キリスト教的人間論」の通史であると言つてよからう（五四三頁）。

そして、この「霊性」は「それによって人間が永遠なる神との関係を生きる機能」「道徳や倫理を超えた霊的な生命」であり、「神から来る愛を受容して生きる」ものであり、この「受容能力」こそが霊性である。そのような霊性の深化は「力強い実践への原動力」となり、「自己愛を否定し他者に向かう愛のわざ」にキリスト教的霊性の特質を向かわせると指摘される。著者のこのような洞察は、カトリック、プロテスタントを問わず、多数の哲学的な思想家や神秘主義家の研究に向かわせ、極めてエキクメニカルな論考となっている。

ギリシアと聖書における霊性が論じられた後、教父時代、中

世のスコラ時代の代表的な思想家、女性神秘家、「新しい敬虔」運動、宗教改革者たち、スペインのテレサや十字架のヨハネ、十七・十八・十九世紀のイギリスならびにドイツの思想家たちさらにはシェラー、プレスナー、ティリツヒからトーマス・マートンにいたる多数の著作家の主要な著作が論考されている。読了して驚きを禁じ得なかったことは、本文に付された参考文献ならびに脚注に上げられた著書の多くが邦訳され、公刊されていることであり、著者がそれらを十分に活用されていることである。もちろん、著者は邦訳されていない重要な作品を多数あげ、自訳で紹介してくださっているが。

（おたか・たけし＝聖アントニオ神学院教授）
（A5判・六〇二頁・定価五六七〇円（税込）・教文館）

キリスト新聞社の本
Kirisuto Shimbun, Co., Ltd.

▶原子力「安全神話」は完全に崩壊した。



原子力と人間

森野善右衛門 著

好評発売中

今ほ3・11大震災を「第一の敗戦」として受けとめて、戦中・戦後の生き方を振り返り、「考え直す」べき時なのではないかと思う。

■四六判 202頁 1680円

▶キリスト教信仰による災害への取り組みの姿勢と実践



災害とこころのケア

斎藤友紀雄 著

好評発売中

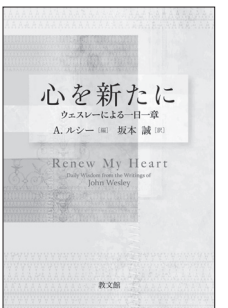
災害時におけるこころのケアについて、心理面ならびに信仰面での牧会的配慮に関する知識および実践面でのガイドブック。

■A5判 114頁 1260円

キリスト新聞社
351-0114 埼玉県和光市本町 15-51
和光プラザ2階
TEL. 043-424-2067（価格税別）
E-Mail. support@kirishin.com
URL. http://www.kirishin.com

生きて働く信仰を学ぶ最上の手引き
J・ウェスレー著、A・ルシー編
坂本 誠訳

心を新たに ウェスレーによる一日一章



黒木安信

今年はジョン・ウェスレーが誕生して区切りのいい三二〇年、召天して三二二年になる。英国人にしては小柄な体を駆使してキリストへの愛に燃え、馬や徒歩で町々を巡り、各地で説教し、信徒の生活訓練や指導に当たり、貧しい人々のための学校や福祉施設の設立にも奔走した。彼が旅行した距離は約三万五千里、五〇年間に四万回を超える説教をしたと伝えられている。

本書は、そのウェスレーの膨大な著作の中の、『ジョン・ウェスレー著作集』第五〇七巻、『新約聖書注解』、『標準説教』から主に引用されている。一頁ずつ三六六日で読めるように工夫され、その日の個所には聖句とテーマが付けられている。

本書において繰り返し語られていることは、聖書と聖霊の光に照らして自らの信仰の在り方を見つめ、吟味することである。そして示された内なる罪を神の前に悔い改め、キリストの十字架による赦しと聖別を受け、新しく造り変えられること。この悔い改めの必要については、随所に取り上げられている。

私たちが悔い改めなければならない罪とは、「内に深く根差した腐敗」(2月1日)であり、「不信仰」、「虚しさ、称賛され

たいという思い、野心、貪欲、肉の欲、目の欲、高慢」、「怒りや憎しみ、悪意、復讐心、ねたみ、嫉妬、邪悪な思い」、「これは魂を多くの悲しみで突き通し、防がないと魂を永遠の滅びに突き落とすことになります」(以上、2月2日)と警告している。

神の恵みをさらに獲得したいと願っている人はすべて「主の晩餐にあずかる」という「恵みの手段」を用いることが繰り返し勧められている。彼は、「私は死ぬ日まで恵みの手段を信頼します」(2月26日)と述べている。そしてキリスト者の信仰が成長できない最大の原因は、「自分を捨てることと十字架を背負うことが常に欠如していること」(9月21日)であると指摘する。特に、「自分の内部の罪と決別しようとしなから(同)である」と。

なぜそうしたことになっていくのかについてウェスレーは、義認と新生があいまいにされているからと言う。「義認と新生は単純に区別されます。それらは同じではなく、かなり異なった本質を持っているのです。義認は関係的な変化を、新生は実

際的な変化を意味します」。「義認は子とすることによって私たちの神との外側の関係が変化することです。義認は敵との関係も変化させます。新生によって私たちの内側の魂は変化し、罪人である私たちは聖徒とされます。義認は神の好意を回復し、新生は神の像を回復させるのです」(8月12日)と。

この神との「関係的な変化」(relative change)と「実際的な変化」(real change)については、ウェスレーの『説教19』『神より生まれた者の偉大な特権』、『説教43』『聖書における救いの道』に詳しい。言うまでもなく、ウェスレーの述べる「新生」(new birth)とは聖化(ホーリネス)のことです。そこに進んでいかなない信仰の問題性が繰り返し警告されている。それはウェスレーが常に語っているように、聖霊によってもたらされる「心と生活」の実質的な変化のことである。

ウェスレーの有名な説教、「心の割礼」(『説教17』)はこの聖書聖句を明快に語っているものとしてよく知られている。本

7172

ネヴィル・タン 著
金本美恵子 訳
『鉄人』と呼ばれた受刑者が
神さまと出会った物語

7172

練馬神の教会副牧師 元KGキリスト者生会総主事 安藤理恵子

この本は、断ち切れない何らかの悪循環から逃れて、変えられたいと願っている人に、確実な助け手を紹介してくれます……
凶悪犯罪者を収監することで名高いシンガポール、チャンギ刑務所。囚人番号7172、「鉄人」と呼ばれ、脱獄と逮捕を繰り返しつつ14年を過ごした男が、神と出合い、神のしもべとなつてゆくまでの軌跡を熱く綴ったあかし。
◎新書判・二四二頁・一、〇五〇円(税別)

山下万里・著 死と生 教会生活と礼拝

古代イスラエルやギリシアの死生観からキリスト教信仰における死と復活の理解までを精察しながら、キリスト教信仰の根幹を平易に解き明かす。巻末に附録。
*ヨベル新書 007・272頁・1,470円(税込)

あかし文章道 への招待 池田勇人・著

文章力を極める! ぐんぐん文章がうまくなる、あかしする言葉が豊かになる! そんな入門書が登場! 自分史や手紙を書くことまで極め細かい配慮に満ちた好著!
*ヨベル新書 012・256頁・1,050円(税込)

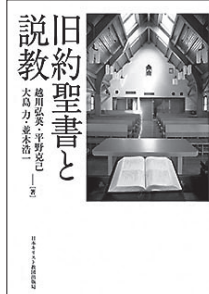
株式会社ヨベル YOBEL Inc.
info@yobel.co.jp
〒113-0033 東京都文京区本郷4-1-1
TEL03(3818)4851 FAX03(3818)4858
自費出版の専門出版社

最後に、ウェスレーの素晴らしい祈りを紹介しておきたい。「主よ、キリストが私たちを愛されたように、行いと真実によって互いを愛することができるよう、最善に導いてください!」(10月25日)。訳者の多大のご労に感謝しつつ。

(くろき・やすのぶ) ウェスレーン・ホーリネス教団浅草橋教会牧師
(A5判・四〇〇頁・定価一四四〇円(税込)・教文館)

旧約抜きに、新約で説教することは難しい
越川弘英、平野克己、大島 力、並木浩一著

旧約聖書と説教



及川 信

この度、「旧約聖書と説教」という魅力的なタイトルの書物が出版された。日本旧約学会（公開シンポジウム・旧約学と説教）（二〇一二年十一月）の記録である。なぜこの書名を魅力的と感じるのかと言えば、「旧約聖書で説教することは難しい」という思いがあるからに違いない。しかし、新約聖書には旧約聖書からの直接間接の引用が数多くあり、旧約抜きに新約がないことは明らかである。つまり、「旧約聖書抜きに、新約聖書で説教することも実は難しい」はずである。

牧師が旧約聖書の説教を敬遠する理由の一つは「旧約学の難しさ」にある。しかし、「文献学的批判をも厭わない聖書釈義が説教に使えるかどうかは、説教者の力量に大きく依存する」（九九頁）と言われれば、頷くしかない。私たち牧師は毎週、聖書釈義と黙想において力量が問われる。その力量を上げるために本書は有益な書物である。発題であるが故に、語り口がやさしく読みやすいことは有り難い。

一、「今日の礼拝と説教における旧約聖書の位置づけと活用」（越川弘英）では、明治期から現代の教会における説教の三つ

の型と旧約聖書の用いられ方についてデータが提示され、興味深いものになっている。

二、「教会の礼拝説教と旧約聖書——アメリカの説教の変遷と重ね合わせながら」（平野克己）は、旧約聖書を欠落してしまった信仰の危険性の指摘から始まり、アメリカにおける説教の変遷を紹介しており、説得力がある。二つの説教例も参考になる。

三、「預言者の想像力と説教——旧約学と説教の接点を求めて」（大島力）は、イザヤ書の実例を通して、豊かなイメージを語ることによって聞き手をリアリティの中に招き入れる説教の可能性が語られる。長年、旧約学に取り組みつつ礼拝で説教をしてきた実績が滲み出ている。

四、「旧約学と説教——総論とヨブ記のアンティフラシス（語意反用・筆者注）」（並木浩一）は、それまでの発題を総合しさらに深化させている。

発題の前半には、聖書と説教、学問と信仰の関係に留まらず、聖礼典、聖霊、選り、民族、個人などの広大にして深遠な世界

が凝縮された言葉で描き出されている。そして、聖書は「神の行為と人間の応答についての、あるいは、出来事に直面した人間の衝撃としての『真実』（リアリティ）を伝達する。リアリティの根底には原事実がある。説教者は聖書の物語的な叙述から、リアリティを汲み上げて語るべきである」（一〇一頁）と言われる。正鵠を得た鋭い指摘だと言えさう。後半には、厳密な釈義と想像力によって読み解かれるスリルに満ちたヨブ記解釈が置かれている。

お互いに打ち合わせたわけではないと思うが、四人の発題者は皆、聖書を読むために「想像力」が必要とされることを強調する。「聖書へのアプローチの大前提となることが……生き生きとした関心と豊かな想像力をもつて読む習慣を身につけること」（越川）。「聞き手と対話し、想像力を喚起し、巻き込んでいく説教とは、どのようなかたちをとるのだろうか」（平野）。「このような預言者の想像力を、説教黙想の中で鍛え、発揮す

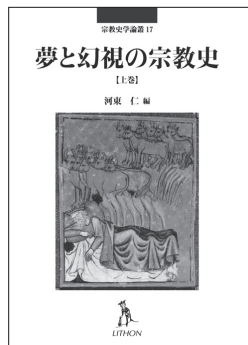
ることで、説教者は聖書テキストに即しつつ、語るべき言葉を見出し、信仰共同体に、聖書テキストが本来有している活力をもたすことができるのではないかと考える」（大島）。「聖書は当然にも想像力概念を知らないが、想像力を駆使して書かれている。それを発掘するのは読み手の想像力である。想像力を豊かに働かせた説教は聞き手の想像力を刺激するであろう」（並木）。「想像力」に関しては、平野氏や大島氏も言及しているように「聖書の想像力と説教」（並木浩一著、キリスト新聞社）が必読の書である。

聖書の「真実」を伝達すべき説教者が、想像力を鍛えて、聖書の世界の内部で見たこと聞いたことを、礼拝の中で生き生きと語るために、本書を読むことは必須のことだと思う。

（おいかわ・しん＝日本基督教団中渋谷教会牧師）
（A5判・二二八頁・定価二二六〇円（税込）・日本キリスト教団出版局）



新刊



宗教史学論叢17

夢と幻視の宗教史

河東 仁 編

●A5判上製 本体5,000円＋税

高井啓介夢の語り点とことばの遊戯—ヘブライ語聖書の「夢」解釈の技法／吉田京子12イマム・シーア派の夢議論／鈴木桂子夢の拒絶と夢への憧れ—ヒルデガルト・フォン・ビンゲンの幻視／高橋原ユング心理学的観点からの夢の解釈／大澤千恵子児童文学と夢—子どもの夢によって開かれる“生きたファンタジー”／他10篇を収録。

ISBN978-4-86376-027-1

LITHON [リトン]

〒101-0061 千代田区三崎町2-9-5-402
FAX 03-3238-7638

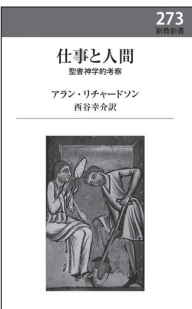
安易な回答を避け聖書に即して考える

アラン・リチャードソン著
西谷幸介訳

仕事と人間 聖書神学的考察

「仕事と人間」。大きなテーマである。生きていくために仕事をしてお金をかせぎ、それによって生活する、あるいは社会的動物として社会を構成しつつ活動をする、あるいは現代人として企業活動の中で企業・組織の方針の実現の歯車としての歩みつつ自分の人生を織りなしていく我々。

原書のタイトルは『The Biblical Doctrine of Work』。簡潔にして力強い。「聖書では『人のわざ』を何だと説いているか」とでもいべきか。Biblical Doctrineであるから、キリスト教「初心者」に対するおもねりも遠慮もない、どう考えるのかをズバツと書いてくれている。しかし、内容は実際に直面するような課題について聖書的な解釈をわかりやすく我々に教えてくれる。また、いかなる特定の問題についても一つの視点は存在しない、とも述べ、読者に解釈を投げかける姿勢も貫かれている。そして、神の創造のわざ、キリストのわざ、そして人間の仕事の三つをとりあげて、聖書の中での記述、労働、仕事と罪、信仰義認、奉獻、さまざまなキーワードをとりあげて、約一五〇ページの中で旧約聖書の語るところを明かしてくれる。



井田昌之

書評者にとって、第11節が中核とを感じる。「仕事に関する聖書の教えの普遍性と限定性」がそのタイトル。あっさりとは質を語ってくれていると思う。次は本文から。「……以上が仕事の救済をめぐるキリスト教の教えです。これはキリスト教徒でない人々やキリスト教徒のつもりでいる人々には魅力的には響かない教えです。……キリスト教が社会や産業や経済の病状を癒してくれる特効薬として推薦されてきた、ということをしはしは聞くのですが、しかし、新約聖書にそのような考え方を奨励する箇所はどこにもありません」。そして11節は次で結ばれている。「ですから、神学者はこの問題（書評者註・近代産業社会の問題）の探求を、近代の産業界において現実に責任を追っている人々に委ねなければなりません」。

きわめて明快なスタンスで、ともかくもキリスト教に解を頼もうとする弱い依頼心をばつさりと切り捨ててくれる。同時に、二千年の間に培われてきたキリスト教の言わんとするところを明かしてくれる。人は生まれ、天に召される日まで、笑い、泣き、楽しみ、悲しむ。この「わざ」はあらゆる人が普遍的にに

なう。また、人は助け合って生きるものだ、あるいは他の人のために尽くせ、あるいは、働くというのは「はたの人を楽にすることだ」などとも言われる。「仕事」の前に、生きていくこと、そのものが人間の仕事である。

愛の宗教とも言われるキリスト教では、すべては神と人間の間の関係として説かれる。聖書には、「キリストの言葉があなたがたの内に豊かに宿るようにしなさい。知恵を尽くして互いに教え、諭し合い、詩編と賛歌と霊的な歌により、感謝して心から神をはめたたえなさい」（コロサイ3・16）とあり、このことと社会人として、あるいは職業人として歩むことの課題が目の前に存在する。キリスト者として歩む者が、どうやって、時に相反すると思われる選択の場面に遭遇する信仰生活と職業生活を共存させるか、大きな課題である。

あるいは、資本主義はキリスト教の影響を多大にうけている、一生懸命働いて、儲けて、そしてたくさんほどこしなさい、と

というのが中核だとも言われたりする。人はその一生で何のために、どんな毎日を送るのか？ 永遠の課題である。

訳者は、青山学院大学院のビジネススクールである国際マネジメント研究科で、当該分野の教授を同僚として、日々、研究と教育に携わっている。ビジネススクールは社会人を中心としてビジネス実務を扱っている。その点でも、本書は、一般の読者を意識して翻訳が進められていることが十分にうかがわれ、また、訳者あとがきにはその訳者の思いが記されている。冒頭には、原著者とその神学的位置を知る土戸清氏の解題がつけられており、原著者に思いをはせることができる。一九五二年に著された本書は今も時代におもねることなくその言わんとするところを読者に語ってくれる。

（いだ・まさゆき）青山学院大学大学院国際マネジメント研究科教授、日本基督教団柏江教会教会員同教団西東京教区常置委員

（新書判・一五六頁・定価二二六五円（税込）・新教出版社）

新教出版社

聖書歴史地図

新教タイムズ
ブリチャード編
日本語版監修 荒井章三／
山内一郎他

B4判・272頁
定価27524円

壮大で立体的なカラー地図と図版600点に詳細な聖書時代史を配し、聖書学・考古学・オリエンタル学・言語学の総力を結集した画期的成果。学校、教会に必携。

カラー版 聖書大事典

ワイゴダー編
日本語版監修 荒井章三／山内一郎

菊倍判・1100頁
定価41796円

4千以上の聖書用語を71名の専門家が的確に解説。総カラー頁。

〒162-0814 東京都新宿区新小川町9-1
TEL: 03-3260-6148
Email: eigyo@shinkyu-pb.com

書店名	郵便番号	住所	電話	ファックス	URL	メール	郵便振替
北海道キリスト教書店	060-0807	札幌市北区北七条西6丁目	011-737-1721	011-747-5979	http://www.jp-shop.com	sasaki@jp-shop.com	02770-2-56520
善隣館書店	020-0025	盛岡市大沢川原3-2-37	019-654-1216	共用	http://www7.ocn.ne.jp/~zen-book/	zenrinkan_syoten@yahoo.co.jp	02350-0-874
仙台キリスト教書店	980-0012	仙台青葉区136 敷島センター・17F	022-223-2736	共用		fqcwk524@ybb.ne.jp	02230-0-31152
恵泉書房	260-0021	〒新市旭町22 茅葺クリスタルセンタービル	043-238-1224	043-247-3072		keisen@vesta.ocn.ne.jp	00120-9-43619
教文館	104-0061	東京都中央区銀座4-5-1	03-3561-8448	03-3563-1288	http://www.kyobunkwan.co.jp	xbooks@kyobunkwan.co.jp	00120-2-11357
聖公書店	162-0814	東京都新宿区新小川町9-1	03-3235-5681	03-3235-5682	http://www/seikokai-pub.jp/	nsk-bookshop@company.email.ne.jp	00140-8-50880
アパコ・ブックセンター	169-0051	東京都新宿区西早稲田2-3-18	03-3203-4121	03-3203-4186	http://www.avaco.info	avaco@avaco.info	00130-0-96398
待農堂	167-0053	東京都杉並区西荻南3-16-1	03-3333-5778	03-3333-6378	http://members3.jcom.home.ne.jp/taindo/	tainshindo@jcom.home.ne.jp	00110-8-95827
キリスト教書店ハンナ	162-0814	東京都新宿区新小川町9-1	03-3269-4490	03-3269-4491		kiristokyoushotenhanne@ybb.ne.jp	00150-9-595509
バイブルハウス青山	107-0062	東京都港区南青山5-10-2	03-6418-5230	03-6418-5231		biblehouse@bible.or.jp	
横浜キリスト教書店	231-0063	横浜市中区花咲町3-96	045-241-3820	045-241-5881	http://www.biglobe.ne.jp	sksch@mva.biglobe.ne.jp	00250-4-2512
清光書店	951-8114	新潟市営所通一番町313	025-229-0656	共用			00680-8-47
静岡聖文舎	420-0812	静岡市葵区古庄3-18-12	054-264-0264	054-264-4416		info@s-seibun.co.jp	0810-8-26558
名古屋聖文舎	464-0850	名古屋市中千種区今池5-28-4	052-741-2416	052-733-2648	http://homepage3.nifty.com/seibunsta/	nagoya-seibunsha@nifty.com	00810-5-14073
京都ヨルダン社	602-0854	京都市上京区荒神口通河原町東入ル	075-211-6675	075-211-2834		ktjordan@inbox.kyoto-net.or.jp	01010-2-594
大阪キリスト教書店	530-0002	大阪市北区曽根崎新地2-1-15	06-6345-2928	06-6345-2187	http://www11.ocn.ne.jp/~osakacs	ochbook@river.ocn.ne.jp	00990-3-43009
堺キリスト教書店	591-8044	堺市北区长尾町2-1-18	072-257-0909	072-253-6132		sakai-x@topaz.plala.or.jp	00960-9-47426
神戸キリスト教書店	650-0021	神戸市中央区三宮町3-9-18三陽ビル2F	078-331-7569	078-331-9933			01150-7-45120
広島聖文舎	730-0016	広島市中区鞆町7-28	082-228-4914	082-223-0951			01360-4-1958
徳島キリスト教書店	770-0052	徳島市中島田町3-57-1	088-633-6335	共用	http://www6.ocn.ne.jp/~tcs/	tokushoten@shrit.ocn.ne.jp	01630-5-37119
松山キリスト教書店	790-0804	松山市中一万町1-23	089-921-5519	089-921-5413		sksch@dokidoki.ne.jp	01650-1-2120
北九州キリスト教ブックセンター	802-0022	北九州小倉北区上富野5-2-18	093-967-0321	共用	http://kcbook.net/	kcbookcenter@ybb.ne.jp	01780-4-39965
新生館	810-0073	福岡市中央区舞鶴2-7-7	092-712-6123	092-781-5484			01750-5-10932
キリスト教書店ハレルヤ	862-0971	熊本市大江4-20-23	096-372-3503	共用			017304-45044
沖縄キリスト教書店	901-2134	浦添市港川2-25-1	098-877-7283	共用	http://www.okinawacbs.com/	okinawacbs@yahoo.co.jp	020308-1283
エマオ・BOOKセンター	904-0004	沖縄市中央3-14-2	098-929-3776	共用	http://www.okinawacbs.com/	emaocbs@yahoo.co.jp	

既刊案内 (2012年12月～2013年1月) (定価は税込)

著 訳・編 者	書 名	判型	頁	定 価	版 元	発行日
E.シューラー 著 小河 陽 訳	イエス・キリスト時代のユダヤ民族史Ⅰ,Ⅱ	各A5	I=402 II=438	I=9,345 II=9,660	教 文 館	12/10
堀江優子 編 著	戦時下の女子学生たち―東京女子大学に学んだ60人の体験	B5	904	8,400	〃	12/10
黒木安信	嘆きの谷を通るときも―詩編に聞く	B6	232	1,785	〃	12/31
J.ウェスレー 著 坂本シ 誠 編 訳	心を新たに―ウェスレーによる一日一章	A5	400	2,940	〃	12/25
加藤常昭 監 修	CDで聴く日本の説教渡辺善太《CD2枚付き・最終回配本》	四六 函入	64	3,575	日本キリスト 教団出版局	12/2
森本二郎＝写真 中村啓子＝朗読	TOMOSELEKT私には私らしく生きる水野源三詩集《写真・朗読CD付》	B5	64	2,940	〃	12/6
芦名弘道	グループスタディ12章イエスのたとえ話	四六	120	1,260	〃	12/15
R.N.ワイブレイ 著 高柳富夫 訳	イザヤ書40-66章―ニューセンチュリー聖書注解	A5	378	6,515	〃	12/17
J.モルトマン 著 蓮見幸恵・蓮見和男 訳	わが足を広きところに―モルトマン自伝	A5	552	5,985	新 教 出 版 社	12/10
菊地 譲	この器では受け切れなくて―山谷兄弟の家伝道所物語	四六	252	1,575	〃	12/11
坂本優二	八重のことは―新島八重とその時代人が語り伝えた生き方	四六	267	1,575	〃	12/30
西原廉太	続・聖公会が大切にしてきたもの―宣教の課題と可能性	四六	114	1,890	聖 公 会 出 版	12/25
クリストファー・L・ウェッパ―著 高橋守・高橋知代 訳	聖公会へようこそ―米国聖公会の歴史、信仰、礼拝入門	四六	232	1,890	〃	12/25
一色義子	河井道と一色ゆりの物語―恵みのシスターフッド	四六	264	1,890	キリスト新聞社	12/17
森野善右衛門	原 子 力 と 人 間―3・11後を教会はどう生きるか	四六	202	1,680	〃	12/17
武岡洋治	闇を変えて	四六	134	1,260	〃	12/17
河東 仁 編	夢と幻視の宗教史(上巻)―宗教史学論叢17	A5	405	5,250	リ ト ン	12/10
池田勇人	あかし文章道への招待	新書	256	1,050	ヨ ベ ル	12/5
大塚野百合	「主われを愛す」ものがたり―賛美歌に隠された宝	四六	230	1,995	教 文 館	1/10
榊原康夫	使徒言行録講解4―12-15章	四六	300	2,625	〃	1/10
出村彰 編	シリーズ・世界の説教新宗教改革時代の説教	A5	486	4,725	〃	1/31
越川弘英、平野克己 大島 力、並木浩一	旧約聖書と説教	A5	128	1,260	日本キリスト 教団出版局	1/21
朴書郁、平野克己＝監修 大澤秀夫、夏伸子、田中かおる、古谷正仁 著	10代と歩む洗礼・堅信への道―志願者用ワークシートCD-ROM付	B5	144	2,100	〃	1/25
ラウシェンブッシュ 著 山下慶親 訳	キリスト教と社会の危機―教会を覚醒させた社会的福音	四六	540	6,405	新 教 出 版 社	1/14
神田健次、アン・パ イル解説・エッセイ	渡辺禎雄聖書版画集―くすしきみわざ	A4	188	5,250	〃	1/29
川端純四郎	3.11後を生きるキリスト教―フルトマン、マルクス、バウハから学んだこと	四六	94	1,115	〃	1/30
H.ナウエン 著 宮本 憲 訳	ア―神の愛した子	四六	176	1,890	聖 公 会 出 版	1/15

新教出版社

福音と世界

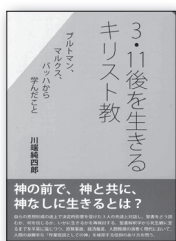
2013年4月号

特集 功績主義のもたらすもの——格差社会	小倉利丸
新自由主義と格差問題……	
生来の格差と反映した野宿・	なすび
野垂れ死にと被爆死……	
人として生きるための保障を!!……	新城せつ子
「非正規労働」という雇用破壊……	大庭伸介
在日外国人への管理・支配・	
「ぶどう園の労働者の譬え」から……	松井悠子
【新連載】	上村 静
旅する教会——再洗礼派と宗教改革……	永本哲也

A5判・80頁・本体571円・〒68円
年間予約購読料千円8,016円（消費税込）

3・11後を生きるキリスト教

川端純四郎著



ブルトマンに師事した著者が、
原発事故、経済格差、人間軽視
の渦巻く現代で、キリスト者として
いかに生きるかを考える。
『福音と世界』連載の単行本化。
◎四六判・94頁・定価1155円

〒162-0814 東京都新宿区新小川町 9-1
TEL: 03-3260-6148
FAX: 03-3260-6198

編集室から

クリスチャンらしいコメントが、期待されていると感じる瞬間がある。せっくなので良い種を蒔こうと、頭は一応高速回転を始める。しかし、慣れないことをするのは難しく、いつしか空まわりとなり終了する。

堀多恵子著による『山ぼうしの咲く庭で』（オフィスエム）の一節、「自然体のクリスチャン」という箇所が心に残っている。小説家、堀辰雄夫人の堀多恵子氏が、自らの半生について語った言葉を一冊にまとめた本である。

クリスチャンホームで育った自身の生い立ちから始まり、堀辰雄との生活、夫亡き後はその語り部として過ごす日々が綴られている。

堀辰雄愛読者に向けて作られたものであり、ご本人も意識していらっしやるのが読み取れるのであるが、私はもう一つの側面、クリスチャンとしての面影が随所に表れているのを読み逃さないわけにはいかない。

戦中戦後、日本が貧しく苦しかった時代では、病人を抱えて食料の調達や、家計のやりくりで奮闘したこと。また、堀辰雄の小説を通して集まってくる愛読者達への対応では、困ることもあったこと。代表作である『風立ちぬ』については、妻にか感じ得ることのできない葛藤も書かれている。

そして、しばらくの間、価値観の相違で遠ざかった教会の話。楽しいことばかりではない人生、生きていく上で避けられない悲しみや苦しみを何度も経験されているにもかかわらず、全体の印象はととても朗らかで、羨ましく感じることもさえる。

堀辰雄のことを語りながら時折織り込まれる、牧師先生との会話や教会の話は、何気ない日常のできごとでありながらきつと読者に、良いキリスト教の印象を与えているような気がする。「自然に自然体」と語る言葉から生まれた種は、私の心にも、心地よい響きとともに落ちた。

（吉崎）

フランチェスコの祈り「太陽の賛歌」がバターソンの言葉とドルトンの切り絵で鮮やかによみがえる!!



たいようも つきも フランチェスコ のうた

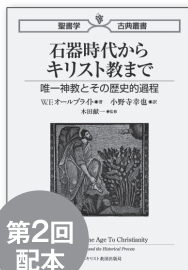
キャサリン・バターソン文 パメラ・ドルトン絵 藤本朝巳訳

神さまに感謝をささげるその思いを伝える絵本。
原著は2011年度ニューヨークタイムズ・
ベスト児童絵本賞を受賞。

◆260mm×260mm 上製・32頁・1,575円



聖書学古典叢書 石器時代からキリスト教まで 唯一神教とその歴史的過程



第2回
配本

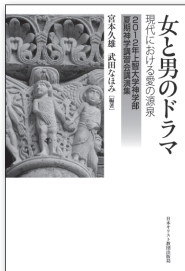
W.F.オールブライト
小野寺幸也 訳
木田献一 監修
唯一神教誕生の歴史的
過程を実証的に分析し
た聖書考古学の古典。
戦後の成果も踏まえた
最終版より本邦初訳。

◆A5判 上製
450頁・6,300円

女と男のドラマ

現代における愛の源泉

2012年上智大学神学部夏期神学講習会講演集



宮本久雄 編著
武田なほみ

森本あんり、岩島忠彦、
宮本久雄らによる11の
論考とシンポジウムの
記録を収録。女と男の
真実のドラマに迫る。

◆四六判 並製
336頁・2,940円

ドイツ教会闘争の 史的背景



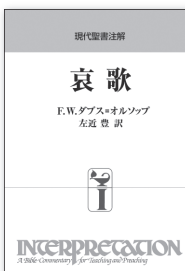
雨宮栄一

民族主義的キリスト教
の勃興、バルト、ティ
リッヒ、ニーメラーら
による批判、ナチスの
教会統制の過程を概観。

◆四六判 並製
360頁・2,940円

現代聖書注解 哀歌

第40回
配本



F.W.ダブス=オルソップ
左近 豊 訳

なぜ神は沈黙しておら
れるのか——。悲嘆の
詩を文学的に分析し、
神の御業、沈黙、不在
の信仰の意味を探る。

◆A5判 上製
274頁・5,670円

コンパクト・歴史リリー 黙示文学の世界

M・ヒンメルファーフ 高柳俊 訳 ● 2,415円



古代ユダヤ教に生まれ、現代に至るまで、人々を突き動かしてきた黙示思想とは何か？ 黙示文学の生成と展開をテーマに則して紹介。歴史の終末のヴィジョンを描く。

日本の近代化とプロテスタンティズム

上村敏文・笠谷和比古編 ● 4,725円



アジア諸国の中でもっとも早く近代化に成功した日本。その推進力となったプロテスタンティズムの日本社会での受容過程とその後の展開を広範にわたって検証する。

無教会としての教会

内村鑑三における「個人・信仰共同体・社会」

岩野祐介 ● 4,725円

「無教会」という思想は、どのような聖書解釈をもとに形成されていったのか？ 『聖書之研究』をはじめとする膨大な資料を渉猟しながら、内村の思想の全貌を明らかにする画期的な研究。

徳富蘇峰の師友たち

本井康博 「神戸バンド」と「熊本バンド」

徳富蘇峰を中心に読み解く初期同志社の学生群像。キリスト教への篤い志をもつ若者たちの姿を、新島襄研究40年の著者が日米双方の資料を駆使して描きだす。 ● 3,990円

新カトリック教会小史

N・タナー

野谷啓二訳 ● 3,360円



迫害、改革、分裂など難問に直面しながらも、世界宗教に発展し、「教皇退位」報道で全世界からその動向が注目されるカトリック教会。その膨大な歴史を、エキゾチックな視点でコンパクトにまとめた、教会の歴史と伝統を理解するための必読の書。

3月の新刊のご案内

一九五七年七月一七日 第三種郵便物認可
二〇一三年四月一日発行（毎月一回一日発行）
本のひろば 第六六号 二〇一三年四月号

発行所 東京都新宿区新小川町九一 一般財団法人キリスト教文書センター
電話〇三・二三六〇・六五二〇 振替〇〇一七・五二・一六七九
発行人 本村利春 編集人 白田浩一 印刷所 (株)平河工業社
発売所 日本キリスト教書販売株式会社 電話〇三・三三六〇・五六七〇

定価七五円（税抜七二円）（〒60円）
一年分一三〇〇円（送料共）



教文館

〒104-0061 東京都中央区銀座4-5-1 TEL03-3561-5549
本のご注文は(e-shop 教文館)へ! <http://shop-kyobunkwan.com/>

e-shop 教文館